

Sun Batta
TOKYO

公 認

登録商標

サンバタ印

選手用専門のバドミントン用品

SSS はサンバタの練習普及品
全国有名運動具店にあります

東京和泉区豊洲 公認店H.O.
株式会社
サンバタ
電話 文部 (五) 五三八一

Badminton

明治大学対立命館大学 第一回定期戦

とき 1955.11.19 (土) 1.00 ~ 5.00
11.20 (日) 1.00 ~ 5.00

ところ 京都・各府中学体育館



主催 明治大学バドミントン部
立命館大学バドミントン部

後援 京都バドミントン協会
京都新聞社
日本バドミントン新聞社

明治大学対立命館大学 第一回定期戦 (1955年 昭和30年) プログラム 表紙、裏表紙

大会 順序

11月19日(土) (第一日)

開会式 午市1時 各府中学体育館

1. 両軍選手整列
2. 開会宣言 大会総務 横山 義
3. 開会挨拶 大会会長 高尾忠男
4. 歓迎の辞
5. 賞杯披露
6. 選手宣誓 立命館大学主持 市村 彦
7. ベナント文換 両軍主持
8. 競技上の注意 競技委員長 坂田善也
9. 選手退場

試合開始 午市1時30分 ~ 5時

11月20日(日) (第二日)

試合開始 午市1時 ~ 4時30分

閉会式 午市4時30分

1. 両軍選手整列
2. 成績発表 競技委員長 坂田善也
3. 表彰
4. 閉会挨拶 大会会長 高尾忠男
5. 審判長講評 審判長 上原正士
6. 閉会宣言 大会総務 横山 義
7. 選手退場

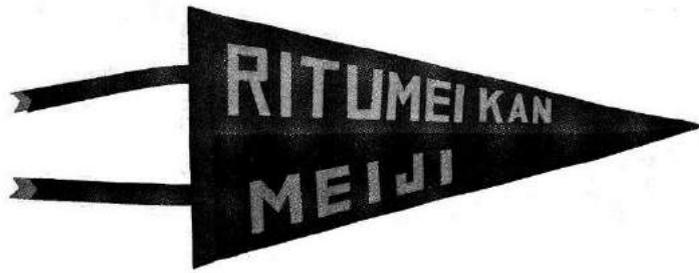
大会 役員

(敬称略)

大会名誉会長	立命館大学校長	木川 博
大会会長	立命館大学バドミントン部部長	高尾忠男
大会副会長	明治大学バドミントン部部長	小坂正徳
顧問	京都バドミントン協会会長	佐藤勝郎
	京都学生バドミントン連盟会長	上原正士
大会委員	明治大学バドミントン部OB	佐藤勝郎
		吹田 修一
		坂田善也
大会総務	立命館大学バドミントン部OB	水納正夫
	明治大学バドミントン部定期戦委員	横山 義
	立命館大学バドミントン部定期戦委員	

競技 役員

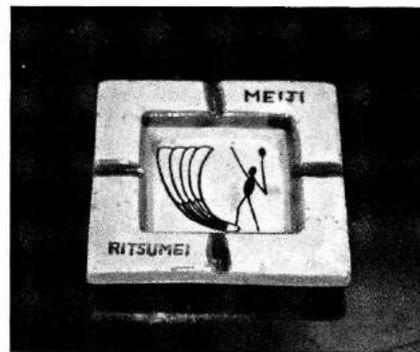
競技委員長	立命館大学バドミントン部OB	坂田善也
競技委員	明治大学バドミントン部主持	小野丹 健
	立命館大学バドミントン部主持	市村 彦
競技審判	明治大学バドミントン部主持	藤原 明
	立命館大学バドミントン部主持	瀬戸 敦彦
審判長	京都学生バドミントン連盟会長	上原正士
審判員	京都学生バドミントン連盟員	



第1回明治定期戦のペナント



第22回明治定期戦のペナント



第1回明治定期戦記念品



第49回明治定期戦のペナント

立命館大学定期戦誕生とエピソード

(明治大学体育会バドミントン部50年のあゆみより引用)

第1回立命館大学対明治大学の定期戦は、昭和30年(1955年)11月19日(土)快晴のよき日に、京都の洛南中学校の体育館で開催された。

この定期戦が始まったきっかけは、立命館大学の市村修さんと、明治大学の永納正夫が平安高校のバドミントン部で活躍していたことに端を発している。

永納正夫がバドミントンに接したのは、昭和25年(1950年)である。新しいスポーツに取り組もうという呼び掛けに応じて高校の時に参加した。その結果、第2回全日本団体西日本大会に京都府代表として出場することができた。

2人は励まし合いバドミントンをやっていたが、市村さんは地元の「立命館大学」に進学し、永納は東京に出て「明治大学」に入学した。

大学3年の夏、高校のOB会に出席した折、同窓生の市村さんに「定期戦でもしよっか」と永納が言うと、みんなが「ほなやろうか」ということになった。

しかし、永納は先輩に聞いてくるからと伝えた。

両校共校風が似ている。何か共通したものがあるということ等を吹田先輩に話したところ、吹田先輩から内藤監督・村山先輩に伝えられ了承を得、10月頃永納は京都に戻った折、市村さんをはじめ、坂田善也(28年卒)瀬戸敏雄(32年卒)川本末夫(33年卒)と会い定期戦の承諾を得たことを話し、第1回が京都で開催されることになった。

第1回の地元となった立命館の当時の部員の方々には、並々ならぬご苦労があったと思われる。

立派なプログラムが作られ、主催は両大学バドミントン部。後援は京都府バドミントン協会、京都新聞社、日本バドミントン新聞社であった。

試合は2日間に分かれ、19日(土)、20日(日)とも午後1時から5時までであった。

競技組合せ方法はインターナショナルチャンピオンのレギュレーションに準拠し、1日目が複2単2、2日目が複2単3の合計9試合で争われた。

土曜日の1日目の夕方、食堂で全員会食し、交流を深めていった。

当時は、OBが若輩であったので、レセプションを開くだけの力はなかった。

今は前夜にレセプションが開かれ、全員が紹介され楽しいひと時を過ごしている。また、男子のみでスタートした定期戦も、男子第24回の時に女子第1回が開催された。

永納は、「卒業して40年以上になるが、今なお関東と関西を結ぶ友情の絆が保たれていることを嬉しく思う」と語っていた。

資料提供は市村修、川本末夫(以上立命館大学)、永納正夫、御厨明(以上明治大学)